

2020 年 8 月 14 日

関係各位

株式会社パテント・リザルト

【大学・研究機関】他社牽制ランキング 2019 トップ 3 は産総研、JST、東大

株式会社パテント・リザルトはこのほど大学・研究機関を対象に、2019 年の特許審査過程において他社特許への拒絶理由として引用された特許件数を企業別に集計した「大学・研究機関 他社牽制ランキング 2019」をまとめました。この集計により、直近の技術開発において競合他社が権利化する上で、阻害要因となる先行技術を多数保有している先進的な機関が明らかになります。

集計の結果、2019 年に最も引用された機関は、**産業技術総合研究所（産総研）**、次いで**科学技術振興機構（JST）**、**東京大学**となりました。

【大学・研究機関 他社牽制ランキング 2019 上位 10 機関】

順位	機関名	引用された特許数
1位	産業技術総合研究所	938
2位	科学技術振興機構	406
3位	東京大学	330
4位	東北大学	266
5位	京都大学	237
6位	東京工業大学	225
7位	大阪大学	220
8位	UNIVERSITY OF CALIFORNIA	195
9位	鉄道総合技術研究所	178
10位	九州大学	174

1 位 **産業技術総合研究所**の最も引用された特許は「直動伸縮アーム機構および当該直動伸縮アーム機構を備えたロボットアーム」に関する技術で、計 10 件の審査過程で引用されています。このほかには「コーティング組成物」に関する技術などが引用された件数の多い特許として挙げられます。

2019 年に産業技術総合研究所の特許によって影響を受けた件数が最も多い企業は、東芝（18 件）、次いでデンソー、富士電機（いずれも 14 件）となっています。

2位 **科学技術振興機構**の最も引用された特許は、大阪大学と共同出願した「ダチヨウを用いた抗体、及びその作製方法」に関する技術で、オーストリッチファーマの5件の審査過程において引用されています。このほかには「薄膜トランジスタ及びその製造方法」に関する技術や「ホモロガス薄膜を活性層として用いる透明薄膜電界効果型トランジスタ」に関する技術などが、引用された件数の多い特許として挙げられます。

2019年に科学技術振興機構の特許によって影響を受けた件数が最も多い企業・機関は、京都大学（13件）、次いで産業技術総合研究所（10件）、東京大学（8件）となっています。

3位 **東京大学**の最も引用された特許は「運転支援装置」に関する技術で、デンソーの「操舵支援装置」「運転支援システム」関連特許など、計5件の審査過程において引用されています。

2019年に東京大学の特許によって影響を受けた件数が最も多い企業は三菱電機で、NTT、ニコン（いずれも8件）、東芝（7件）と続いています。

そのほか、4位の**東北大学**は「マルチモードファイバの測定装置」に関する技術が、5位の**京都大学**は「体細胞の核初期化因子」に関する技術が、最も引用された特許として挙げられます。

【ランキングの集計対象について】

日本特許庁に特許出願され、2019年12月までに公開されたすべての特許のうち、2019年1月から12月末までの期間に拒絶理由（拒絶理由通知または拒絶査定）として引用された特許を抽出。

本ランキングでは、権利移転を反映した集計を行っています。2020年5月29日の時点で権利を保有している機関名でランキングしているため、出願時と機関名が異なる可能性があります。

業種は総務省の日本標準産業分類を参考に分類しています。

また弊社では、本ランキングの詳細データを下記の通り販売しています。

【大学・研究機関 他社牽制力ランキング 2019 ご提供データ】

▶納品物：以下のデータを収納したCD-ROM

1) ランキングトップ50機関

大学・研究機関の被引用件数上位50機関のランキング

2) 被引用件数上位100件のリスト

大学・研究機関の被引用件数上位100件及び引用先の特許との対応を掲載

▶価格：50,000円（税抜）

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社パテント・リザルト 事業本部 営業グループ

Tel：03-5802-6580

Fax：03-5802-8271

ホームページURL <https://www.patentresult.co.jp/>